

幼稚園 広い園庭を使った からだづくりに取り組んでいます

附属幼稚園教諭

石田晶子

おはようたいそう

朝、ほとんどの子どもたちが登園すると、園内には「おはよう〜おはよう〜」と明るい音楽が鳴り響きます。子どもたちは一斉に園庭に飛び出し、友達と顔を合わせて歌を口ずさみます。みんなが揃うと「おはようたいそう」の始まりです。からだの曲げ伸ばし、正中交差などさまざまな動きを体操の中に取り入れ、無理なく楽しんで取り組んでいます。

朝からしつかりとからだを動かしたり、声を出したりすることで、からだのさまざまな



みんなで楽しくマラソン

感覚に刺激を与え、頭もからだもすっきり目覚めます。「おはようたいそう」によって、遊びに対する意欲も増し、友達と誘い合って元気に遊び出す姿が目につきます。

マラソンでからだづくり

体操の後には、マラソンをすることもあります。広い園内や「子どもの森」を走ります。「子どもの森」には木の根っこがあつたり、でこぼこや坂道があつたりしますが、慣れてくると子どもたちは足を取られることなく、びよんびよん上手に走っていきます。年長児は、園内だけでなく時には門から外へ出かけ、附属小学校や大学近くまで走ります。そんな年長児の姿は、年中・年少児にとつて憧れでもあります。また、親子でマラソンをする機会を設け、保護者には子どもたちの日頃の姿や頑張る様子を知らせています。家庭でも一緒に体を動かして遊ぶきっかけとなるよう願っています。

園内の環境を生かして

このように、日頃から体を動かす機会

中学校 ESDの理念にもとづく学校づくりの取り組み

附属中学校主幹教諭

井村 健



食育オフィスと連携して

2008年度、本学の「教員養成大学」による地域食育推進プログラム―食育オフィスの開設と食育リーダーの育成―(http://maisrv.nara-edu.ac.jp/~suzuki/syokuikugp/toppage.html)が文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム」に採択されました。そのプログラムに関連し設置された食育オフィスと連携し、大学や附属校園の先生方、県下の公立小・中学校教員や栄養職員の方々と食育に関する教材開発研究を進めています。これからの子どもたちの「食」についての研究をさらに進めていきます。



写真①

奈良教育大学
イメージキャラクター
「食育なっちゃん」



ユネスコ・スクールへの 加盟と国際交流

本校では、「ESDの理念にもとづく学校づくり」を研究テーマに取り組んで、四年目になります。昨年七月には、ユネスコ・スクールへの加盟が承認された。今回の加盟を機に、昨年八月には次のような活動に参加することができました。まず、ユネスコ・スクールネットワーク(ASPネット)主催の、日本とインドネシアの中学生による国際交流ワークショップ(東京)、「持続可能な未来を創るアジア少年ワークショップ」未来を選択するのはわたしたち」に代表生徒6名が参加しました。このワークショップでは、日本の中学生とインドネシアの高校生とが、共に「よりよい未来を創るために」をテーマに交流を深めました。教員対象の活動としては、ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)主催の「ACCU国際教育交流事業韓国政府日本教職員招へいプログラム」に参加する機会を得て、ユネスコスクールの善隣中学校・果川高等学校・南星女子高等学校で行われているESDの素晴らしいことに、直接触れることができました。また「世界遺産教育を進めるための視察」と

を取り入れることで、自ら選んで遊ぶ活動の中でも、「おにごっこしよう!」と子どもたちから声が上がります。園庭の真ん中にある円形の芝生は広さもちょうどよく、その中で追いかけたり逃げたりするため敏捷性も培われます。

小学校 附属小学校における食育

附属小学校教諭

谷口 明子



『食に関する指導の計画』 (食育プログラムの作成)

今回告示された新小学校学習指導要領で「食育」を「保健体育、家庭科、特別活動などにおいても、それぞれの特質に応じて適切に指導を行うよう努めること」と明記されました。附属小学校では家庭科部会を中心にして『食に関する指導の計画』を作成し、子どもたちに健康で豊かな食生活を考えさせることを目標にしました。学校給食を活用しつつ、給食時間だけではなく各教科や学級活動・児童会活動などでも指導を行います。5・6年の家庭科での食物領域の栄養学習との系統性を考えつつ、低学年や中学年の学級活動で食育に取り組みます。おうちの方とは、学校保健委員会での給食の納入業

子どもたちの体力低下や、遊び場所が少なくなってきたと言われる中、幼児期から体を動かす楽しさを十分に感じて欲しいと考えています。園内の環境を生かしながら、丈夫なからだづくりを大切にしていきたいと思っています。

授業の実際・・・中学年(4年) の実践「食べ物のほたらき」

第二次性徴を目前にした子どもたちにカルシウムを意識して積極的に摂ってほしい、という願いで取り組みました。学級担任と栄養教諭とのチームティーチングの形で授業を組み立てました。給食では、毎日牛乳や乳製品がよく出されます。子どもたちは、その理由を体の中のカルシウムの働きの理解を通じて学びました。この授業をスタートに食べ物の体の中の働きを3つに分けて学習しました。学習後、「この食べ物に

「平和のつどい」の 取り組みを通して

して、シルクロード方面の現状視察に行く機会も得ました。これらの活動を通して得られた貴重な経験を、今後のESDの取り組みに生かしていきたいと考えています。

附属中学校がESDで取り組んでいる

テーマには、世界遺産教育や環境教育、人権教育、多文化共生教育、平和教育等があります。1987年から生徒会が中心になり、戦争、貧困、差別、環境破壊などに苦しむ世界の多くの人々の状況を知り、それを救済するために

はどのような活動が必要なのかを全校で考える「平和のつどい」を行っています。現在、日本ユネスコ協会連盟が行っている「世界寺子屋運動(世界中の学校に行けない子どもや、学校に行けずに大人になり、文字の読み書きが得意でない人々が「学びの場」寺子屋」で読み書きや算数を学べるように、教育の機会を提供する運動)をはじめとするESDの取り組みを行っています。一月には、日本ユネスコ協会連盟事務局の木村まり子氏から、「地球上の同世代



平和のつどい(平和宣言)

*ESD (Education for Sustainable Development)
: 持続可能な未来のための教育